



# 学校だより 11月号

令和4年10月31日

横浜市立六つ川小学校

ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawa/>

学校教育目標

**みんなでチャレンジ 六つ川の子**  
(地域を愛し、主体的に考え行動する人を育てます。)

## 六つリンピック

校長 妹尾 正彦

10月22日(土)3年ぶりに全校揃っての「六つリンピック」が開催できました。朝からたくさんの保護者の方にご参観いただきました。また、PTA本部役員の皆様、六つ川小サポーターズの皆様には早朝から運営そして終了後の片付けまでお手伝いをいただきました。終了後の片付けには何人もの保護者の方々もご協力いただきました。本当に多くの方々のご協力・支えがあって開催できた六つリンピックでした。ありがとうございました。

今年のスローガンは「みんなで協力 六つリンピック 最後まで全力で挑戦しよう!!」でした。

私は、子どもたちは見事にこのスローガンを達成できたと思います。そして六つリンピックが子どもたちにとって大変大きな成長の場になったと思います。

六つリンピックという行事の目的は、体育の授業で学んだことの発表の場という意味合いもありますが、それ以上に、①集団で1つのことをやり遂げることによって、一人では味わうことのできない集団での達成感や感動体験をさせる場とする。②下級生の見本となるべき上級生の行事に取り組む姿を見せ、次年度以降の児童の取組に繋いでいく。ということにあると私は考えています。

そのため、9月末、本校児童にコロナ感染者が増加し、校内での感染拡大が懸念される中、ギリギリまで話し合いを続け、今年度の六つリンピックについて、全校開催、ブロック毎の演技、応援団の結成、保護者の参観人数制限などに踏み切りました。

練習期間は1ヶ月という本当に短い時間でしたが、子どもたち一人ひとりが一生懸命取り組むだけでなく、応援団は中休み、昼休みにも校庭や体育館で練習を行ったり、各ブロックの練習では上級生が率先して準備・練習・片付けに取り組む姿勢を見せてブロックの士気を高めたりするなど、集団の「頑張ろう」という雰囲気づくりも行っていました。こうした2つの取組が本番当日の競技、演技、係活動の子どもたちの姿に繋がっていったと思います。

特に圧巻だったのが、高学年の演技「熱血、六つ小ソーラン!!」。4カ所の待機場所に分かれ、音楽が始まり、今から入場しようとする子どもたちの姿を見た段階で私は感動してしまいました。練習開始当初の「やらされ感」からは一変、その立ち姿は5、6年生全体の「みんなで成功させるぞ。やってやるぞ」という気概に溢れていました。子どもたちの大きな成長を感じるとともに、一人ひとりが頑張るだけではたどり着けない、集団の力を感じました。

参観していただいた保護者の皆様はどのように感じられたでしょうか。ぜひ、学校評価アンケートなどで、ご意見をいただければと思います。今年度、ブロック毎に異なる演技種目を行いました。これは昨年度分散で開催した六つリンピックで保護者の方々からいただいたご意見をもとに変更したものです。今年度は六つ川小学校評価委員会「くすのき会」の委員の方々にもご参観いただいています。みなさんからのご意見をいただきながら、保護者、地域、学校が一体となって、子どもたちにとって良い成長の場づくりを今後も進めていきたいと思っています。よろしく願いいたします。